

農業資源・技術研究センター 第1回公開セミナー

エアロビック・ライス法： 節水と多収を両立する稲作の実現に向けて

日 時／2011年6月27日(月) 13:00～ 14:00

場 所／農学部 BW106講義室

熱帯アジアを始め、農業用水の不足が懸念される稲作地域が急速に広がっている。このため、生産量を維持したまま水消費量を出来るだけ減らすような稲作の開発が世界中で進められている。本発表では、持続的な水資源利用を目指す稲作技術に関する演者らの取り組みを紹介する。演者らはこれまで、水資源を大幅に節約する新技術“エアロビック・ライス法”と呼ばれるイネの節水栽培法において、収量の更なる向上と収量安定性の向上を目指してきた。その結果、エアロビック・ライス法においても慣行の灌漑水田作と同水準の収穫量が可能で、多収イネを用いれば10t/ha超の収量をあげることを確認した。しかしエアロビック・ライス法では根系発達が著しく抑制されるため、弱い土壌乾燥であっても植物体が脱水症を示しやすい栽培法であることが明らかとなった。また、イネの根系分布もこの節水栽培法への適性に深く関わる特性であることが示唆された。さらに演者らは、節水栽培に適したイネ品種育成のための基礎研究として高収量性と高度耐乾性(干ばつ抵抗性)の両立に向けた取り組みも始めている。本発表では、この一部としてフィールド実験における量的形質遺伝子座(QTL)解析結果やイントログレッション系統を用いた解析結果も合わせて紹介する。

講師紹介

加藤 洋一郎(Kato Yoichiro)

所 属

東京大学大学院農学生命科学研究科
附属生態調和農学機構 助教

略 歴

2005—2007年
2007年

日本学術振興会 特別研究員(DC2)
東京大学大学院農学生命科学研究科
博士課程 修了[博士(農学)]

2007年—現在
2008年
2009年

東京大学大学院農学生命科学研究科 助教
日本作物学会研究奨励賞 受賞
日本農学進歩賞 受賞

学術論文等は、東京大学大学院農学生命科学研究科HP
(<http://www.a.u-tokyo.ac.jp/index.html>)「研究者の紹介」参照

主催：香川大学農学部 農業資源・技術研究センター